資料２

新築京町家のすすめ

〈ガイドブック〉

令和2年3月
京　都　市

目　次

１．新築等京町家とは

１－１　京都における京町家の意義

１－２　京町家を新築するということ

１－３　新築等京町家の５つの指針

２．新築等京町家デザインガイド

（１）まちに暮らす

（２）四季や自然を楽しむ

（３）大切に使う

（４）場所になじむ

（５）技を感じる

３．新築京町家設計事例

３－１　設計事例①　伝統意匠タイプ　～様式を継承する～

３－２　設計事例②　現代意匠タイプ　～考え方を継承する～

３－３　設計事例③　郊外タイプ　～地域を生かす～

３－４　設計事例④　集合住宅タイプ　～高密度居住を発展させる～

３－５　その他の事例紹介

参考資料

認証シート

検討部会について

1. 新築等京町家とは

１－１　京都における京町家の意義

京町家は，それぞれが独立した住宅でありながら，それらが連担することで，洗練され，落ち着いた京都の町並み景観をつくってきました。

また，外観だけでなく，四季折々の自然と共生するなど，京町家に蓄積されてきた個性豊かで先駆的な生活における工夫や知恵などを継承・発展させ，また，新たに創造していくことは，真に豊かな市民生活の実現につながるものであるといえます。

つまり，京都において京町家は，”町並み景観を構成する基盤”であるとともに，歴史的に培われた”生活文化の基盤”となっているのです。

京都にとって貴重な財産である京町家ですが、戦後，多くの京町家が取り壊されており，年間約２％の京町家が滅失し続けています。

京町家を次の世代に着実に引き継いでいくためには，現在残されている約 40,000 軒の京町家の保全・継承に取り組むとともに，現在のライフスタイルに合った新たな京町家を創出していくことが求められます。

１－２　京町家を新築するということ

京町家を新築するということは，町並み景観を守ることを通じて，京都に暮らすものとしての誇りやアイデンティティを次世代に引き継ぐ行為であるといえます。

また，京町家が伝える生活文化には，現代においても改めて評価すべき共存の精神が息づいています。門掃きなどの日常の営み，建具の入れ替えといった季節に応じた柔軟な暮らし方，地蔵盆などの年中行事を通じては，生活の知恵だけでなく，自然と共存する精神や，集団生活における共存の感性（パブリック・マインド）を育むことが期待されます。さらに，木組みや土壁といった伝統的な技を用いることで，温かみのある居住空間を作りだすとともに，伝統技術・技能の継承につながります。

これらの京町家の知恵を，現在の生活様式に取り込むことで，より京都らしい，充実した暮らしの手がかりになるのではないでしょうか。

１－３　新築等京町家の５つの指針

「京町家の特性を生かした，京都のまちに将来にわたって相応しい住宅」を目指すものが「新築等京町家」です。

伝統的な京町家を単純に模倣するのではなく，京都の長い歴史のなかで培われてきた京町家の知恵を受け継ぎながらも，現代ニーズに沿った，新しい京都の住宅です。

設計する際に重視すべき項目を，以下の５つの指針として整理しています。

指針１　まちに暮らす

京都のまちでは，建物と庭がともに連担することで通風や採光が確保される京町家によって，高密度居住が可能なまちがつくられてきました。

隣地の状況，町並みを踏まえて，建物配置やプロポーションを計画することで，密度の高い地域社会における多様な関わり合いを継承することができます。

指針２　四季や自然を楽しむ

京町家では，通風や採光を上手く取り入れることで，年中快適かつ環境に優しい暮らしをおくることができます。

また，奥庭や坪庭といった自然を感じることのできる空間を住まいに取り込むことで，都心においても潤いのある暮らしを実現することができます。

指針３　大切に使う

京町家には，古材を活用するなど「もの」を大切にする精神が息づいています。
住まいそのものから、建具や家具に至るまで，大切に長く使い続けられる工夫をすることで，愛着のある住まいを次世代にも引き継ぐことができます。

指針４　場所になじむ

都心から郊外まで，京都のまちは，様々な地域特性に彩られた多様な景観が魅力です。地域特性や歴史を踏まえて設計することで，場所に馴染む住まいとすることができます。

指針５　技を感じる

伝統構法をはじめ，畳一つにとっても京町家には，長い歴史の中で培われた技術・技能が詰め込まれています。これらを活かすことで，京都の文化を継承することができるだけでなく，より誇りの感じられる住まいとすることができます。

コラムタイトル

コラムの文章が入ります。

２．新築等京町家
デザインガイド

新築等京町家デザインガイドの構成

各指針のねらいや，指針を達成するためにどのような方法があるかの例示，伝統的な京町家ではどのような工夫をしていたか等を，２デザインガイドで解説しています。

新築等京町家設計の考え方

・５つ全ての指針について，設計に反映してください。
・それぞれの指針に基づく具体的な設計方法は自由です。２デザインガイドの解説や例示も参考にしながら，設計者の柔軟なアイデアで，指針をどのように設計に反映するか，考えてみてください。
※指針のねらいが達成できればよいので，例示している項目を全て反映しなければいけないわけではありません。

まちに
暮らす

指針１
まちに暮らす

① 隣との連担に配慮する
② 町並みのもつスケール感に配慮する
③ 開口部の位置などプライバシーに配慮する
④ まちと緩やかにつながる仕掛けをつくる

四季や
自然を
楽しむ

指針２
四季や自然を楽しむ

① 風や光，自然が感じられる庭を設ける
② 季節の飾りや草花が飾れる場所を設ける
③ 木や土壁等の自然素材を使う
④ 建物内の風通しや日射をうまくコントロールする（内と外の中間領域を設ける等）

大切
に使う

指針３
大切に使う

① メンテナンスしやすいようにする
② 経年変化を楽しめる工夫をする
③ 材料の性質を活かして設計する
④ 多様な使い方ができるようにする
⑤ 建具や部材の再活用ができるよう配慮する

場所に
なじむ

場所になじむ

① 地域特性を踏まえたデザインにする
② 昔ながらの地割に配慮する
③ 建物本体だけでなく設備機器の見え方にも配慮する

※指針１の「②町並みのもつスケール感に配慮する」はこちらに移動することも検討

技を
感じる

技を感じる

① 畳スペースを設ける
② 木組み，左官等の伝統技術・技能を生かすことも考える
③ 古建具や古材の活用も考える

指針１　まちに暮らす

隣地の状況，町並みを踏まえて，建物配置やプロポーションを計画する

ねらい・背景

京都のまちにおいては，日常の門掃きや地蔵盆などの年中行事など，共同で物事を行う中で，周囲に気を配りながらも自立を尊重し，多様な価値観を認め合うという「異なる価値観の共存」を可能にする風土が生み出されてきました。

京町家が建ち並ぶまちを歩いていると，ゆるやかに統一された美しい町並みが印象的です。通りから見えない「オク」と呼ばれる奥庭は，お隣や裏の奥庭と連続することで，低層高密な京都のまちなかに大きなオープンスペースを作り出し，各戸に自然の風や太陽の光を効果的に取り入れるとともに，火災時の延焼を防止する役割などを果たしています。こうしたまちの連続性は，京都の先人達が，人とのふれあいやまちとの交流を前提にまちづくりを行ってきたことによるものです。

郊外部においても，道に沿って塀を設けることや，道路から一定のセットバックをするなど，地域の状況に応じた建て方がされています。

住宅を建てる際にも個人の権利が重視され，まちのつながりが軽視されがちな現代ですが，京都の先人達が築いてきた家とまちとの関係をもう一度見直し，継承していくことが大切ではないでしょうか。

このことは，京町家に限らず，京都で住むにあたっては，とても重要なポイントです。お隣やお向い，裏のお宅と協調し，互いに心地よく暮らせることを重視して設計してください。まずは，設計前に，敷地周辺の状況をしっかり調査しましょう！

例えばこんな工夫

① 隣との連担に配慮する
② 町並みのもつスケール感に配慮する
③ 開口部の位置などプライバシーに配慮する
④ まちと緩やかにつながる仕掛けをつくる
※ それぞれの解説は次ページ参照

1 隣との連担に配慮する

ここが京町家！

◇風や光を取り込むオープンスペース

まちなかにおいては，奥庭をお隣や裏の奥庭等と連続させることで，オープンスペースを作り出し，各戸に自然の風や太陽の光を効果的に取り入れることができます。

郊外部においても敷地内の建物配置を周辺の建物と合わせることで，通風や日照を最大限生かすことができます。

またオープンスペースは，火災時の延焼を防止する役割などを果たします。

ポイント・アドバイス

◇隣地との協調に配慮

隣接敷地の建物配置，地域の風の流れ，隣地への日影の影響，眺望を阻害しないかなどをよく確認して，建物や空地の配置計画を考えましょう。

特にまちなかにおいては，隣地建物の横には建物を，隣地の庭の横には庭を配置するなど，日照，通風について，隣地との協調を考えることが重要です。

建物内に駐車場を設けるなど，建物をセットバックしなくてもよい工夫を考えましょう。

2 町並みのもつスケール感に配慮する

ここが京町家！

◇調和ある美しい町並み

京町家は，家並み，軒高などについて，意匠が抑制されており，調和のある美しい町並みを創出しています。

統一感のある町並みとなっている要因のひとつに，通り庭の配置が挙げられます。建物の東側又は西側が道に面する町家なら南側寄り，南側又は北側が道に面する町家なら東側寄りに，通り庭が設けられるのが基本です。「通り庭」と「部屋」が交互に並ぶことで，町並みに統一感が生まれるとともに，通り庭が空間構成の「調整しろ」としての役割も果たしています。

ポイント・アドバイス

◇町並みに揃える

敷地周囲の町並みを踏まえて長大な壁面を適切に分節するなど，建物全体のボリューム感や各部分のサイズの比率など，全体のバランスを地域の町並みに揃えて，圧迫感の軽減に努めましょう。

3 開口部の位置などプライバシーに配慮

ここが京町家！

まちなかの京町家は隣地と外壁が接しており，妻側には開口部がありません。雨仕舞いのほか，延焼防止や防犯性向上といった効果もあります。

ポイント・アドバイス

隣地の状況を踏まえて，窓などの開口部の位置を決めましょう。

その他，次のような点も要チェック！

●駐車場の位置
●室外機等の空調設備の騒音・排気
●マンションなどの規模の大きい建物の場合
●階段・廊下などの騒音対策
●落下物対策
●ごみ置き場の位置や管理

4 まちと緩やかにつながる仕掛けをつくる

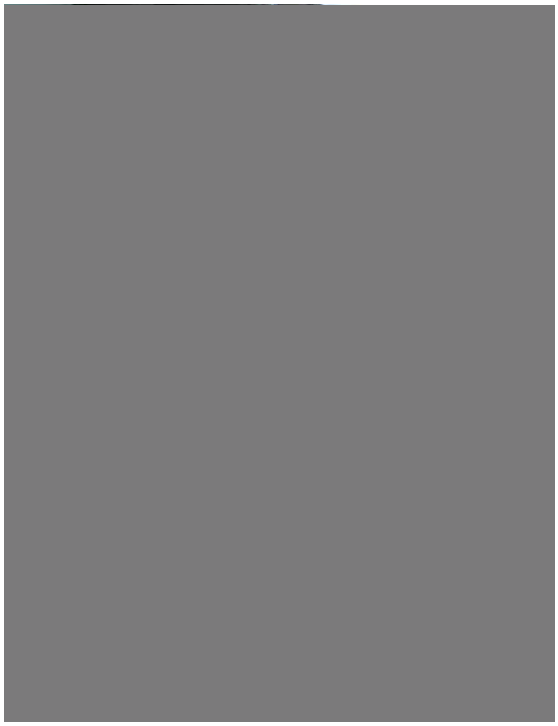
ここが京町家！

◇軒下の多様な空間

格子と通り庭によって，表と隔てられている京町家では，内と外とがゆるやかにつながっています。例えば，京町家の特徴的な意匠の一つである通り庇の軒下空間は，ある時は雨宿りに，ある時はばったり床几を出して展示や休憩に，またある時は幔幕を張ってお祭りの空間にと，多様に使われ，通りの公的な空間と内側の私的な空間をつなぐ半公共的な空間を形成しています。

◇内と外を緩やかに隔てる

格子は，道ゆく人からは内側が見えにくく，家人からは外の様子が良く見えるようにできており，柔らかい防犯装置としての機能を持っています。また，通り庭に入ってすぐの場所は，店の一部や応接の場として使われ，来訪者とのコミュニケーションの場としての役割も果たしています。このような，半公共的な空間が，コミュニケーションの場となり，地域とのゆるやかな関わりを生んでいます。



ポイント・アドバイス

◇地域の行事で活用

地蔵盆などの地域行事に開放できるセミパブリックな空間をつくってみても良いですね（京都市では約８割の自治会・町内会で地蔵盆が行われています！）

◇玄関先を多機能に活用

プライバシーを確保しつつ，まちに開いた部分をつくってみましょう。

玄関スペースを広めにとり，腰掛けられる空間を設けるなど，近所づきあいのきっかけの場や，来客時の柔軟な対応ができる場を考えてみましょう。

指針 2　四季や自然を楽しむ

四季や自然が楽しめるよう工夫する

ねらい・背景

そよ風，木漏れ日，季節ごとの草花，鳥のさえずりなど…人は自然を感じることで，疲れた心が癒され，和やかな気持ちを取り戻すことができます。そして，日本人は昔から自然の中で，自然と一緒に暮らしてきました。

京町家では，うまく自然を暮らしに取り込み，自然と付き合い，四季を楽しむ工夫を重ねてきました。例えば，郊外部で敷地に余裕のある町家では広い庭が設けられていますし，高密度居住のまちなかの京町家であっても，どんなに小さくても必ずお庭が設けられており，そのほんの小さな空間を活かして，風や光，植栽の緑を暮らしに取り入れています。

ただ，昔の伝統的な暮らしをそのまま受け継ぐ，ということでもありません。技術の進歩や時代のニーズに合わせて，新たな技術や考え方をうまく取り入れることも重要です。今の技術では，断熱性・機密性を高めながらも，風や光など自然とのかかわりを感じられる住宅を作ることもできます。

新築等京町家では，空調設備などの現代の技術や新しい考え方も取り入れながら，四季や自然の移ろいを楽しめる，省エネかつ快適な暮らしを設計・提案してみましょう。

例えばこんな工夫

① 風や光，自然が感じられる庭を設ける
② 季節の飾りや草花が飾れる場所を設ける
③ 木や土壁等の自然素材を使う
④ 建物内の風通しや日射をうまくコントロールする（内と外の中間領域を設ける等）

※　それぞれの解説は次ページ参照

1 風や光，自然が感じられる庭を設ける

ここが京町家！

◇自然を身近に取り込む

京町家ではどんなに小さくても必ずお庭が設けられています。

お庭の空間を通じて，心地よい風の通り抜けを感じることができます。

京町家では，隣の家と庭を連担させること，庭に植栽を施して表の通りとの温度差をつくること，奥から表まで通り抜けた空間（通り庭）があること等によって風の流れを作っています。

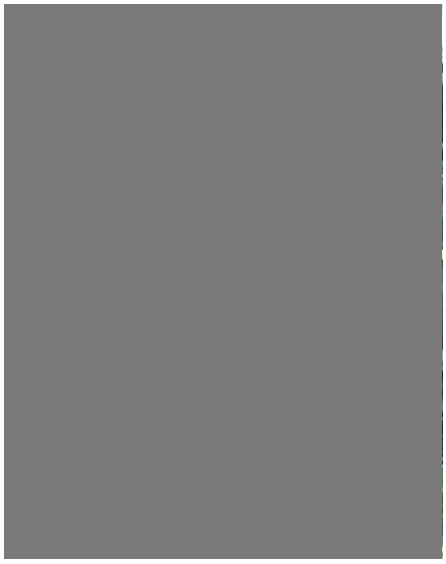
まちなかでも自然を身近に感じ，四季の移り変わりを感じることができます！

ポイント・アドバイス

◇四季の移ろいを楽しむ

風が通りぬけるよう，お隣の庭の位置に合わせて，設置場所を決めましょう。庭を楽しめる縁側や季節感の創出など，細やかなアイデアを盛り込んでみましょう。

落葉樹を植えると，季節の変化が楽しめるとともに，夏の日射遮蔽・冬の日差しの取込みといった環境調整ができます。メンテナンスのことも念頭におきながら計画しましょう。



2 季節の飾りや草花が飾れる場所を設ける

ここが京町家！

◇季節に応じたしつらい

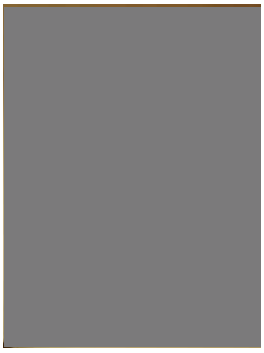
床の間や飾り棚のお花や飾りを変えることで，季節や行事を楽しめます！。

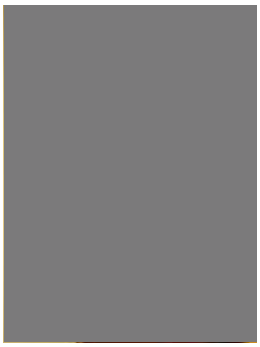
ポイント・アドバイス

◇彩りをそえる飾りを工夫する

床の間や違棚といった伝統的なしつらいに囚われず，柔軟なアイデアで設計してみましょう。

飾るものが引き立てられ，部屋に彩りが加わるような仕掛けを考えてみましょう。





3 木や土壁等の自然素材を使う

ここが京町家！

◇木や土壁の快適な空間

伝統的な京町家は木や土など全て自然素材で作られています。また真壁造りのため，木の柱や梁が内部空間に現れており，木の温もりを感じることができます。

土壁や珪藻土，漆喰などの塗り壁は，調湿効果があるので，室内の湿度を快適に保ちます。

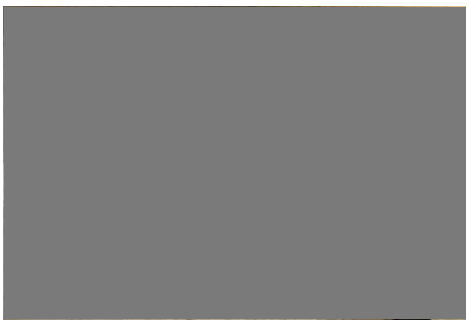
ポイント・アドバイス

◇自然素材を活かして快適に暮らす

無垢の木や土壁・珪藻土等の左官壁，和紙，い草の畳など，仕上げに自然の素材を使うことで，自然素材の温もりや素材感を感じることができます。また，自然素材は使い続けるほど味わいが出てくるので，経年変化も楽むことができます。

自然素材を使うことで，化学物質による健康リスクが抑えられるとともに，木のもつリラックス効果などから，健康にやさしい住まいになります。

地域産木材を利用すると，材料輸送時に排出される CO_2 を削減でき，環境に配慮することもできます。



4 建物内の風通しや日射をうまくコントロールする

ここが京町家！

◇最大限の風通しの確保

京町家では，取り外せる建具，格子，奥から表まで通り抜けた「通り庭」，隣と連担させた奥庭・坪庭などの工夫により，可能な限りの風通しを確保してきました。

京町家の深い軒･庇は，夏は日射を遮り，冬は日差しを取り入れることができます。

これらにより，夏の暑さ，冬の寒さを緩和し，自然との共生を図ってきました。

ポイント・アドバイス

◇風の通り道を確保し、温熱環境を向上させる

地域の卓越風向や近隣の建物配置を踏まえながら，風の通り道を設計しましょう。夏の日射遮蔽だけでなく，冬の日射熱取得にも配慮しましょう。

開口部への日射を遮るには，軒・庇以外にも，紙障子，ブラインド，すだれ等を組み合わせると効果的です。

壁，床，屋根，窓などをしっかり断熱することで，夏は涼しく冬は暖かく快適に過ごせます。縁側やサンルームなど，温熱環境上のバッファーゾーンにもなる生活空間を設けると居住空間の快適性向上に寄与できます。

指針 3　大切に使う

大切に長く使い続けられるよう工夫する

ねらい・背景

京町家は，維持修繕していくことを前提とした建物であり，容易に修繕することができるように，様々な工夫がされています。また，出入りの大工によって日常的な維持管理が円滑になされてきました。

また，畳や建具などは決まったサイズで作られており，再利用や入れ替えが容易にできます。

環境面からも,「つくっては壊す」というスクラップ＆ビルド型から,「いいものを作って，きちんと手入れをして長く大切に使う」ストック活用型へと，考え方を転換していくことが必要です。建築コストが少し高くても，良いものをつくることで，長く使い続けることができ，トータルで考えるとコストパフォーマンスの高い住まいになります。

ちなみに，日本では昔から，長く大切に使ってきたものには，魂が宿ると考えられてきました。「MOTTAINAI（もったいない）」という言葉が世界にも広がっていますが，物を大切にする精神は日本の文化とも言えます。

手入れしながら長く大切に使うことで，思い出が刻まれ，愛着がわきます。そのような大切にされてきたもの，大切にできるものに囲まれる暮らしは，私たちの心をより豊かにしてくれるのではないでしょうか。

世代を超えて大切に使ってもらえる建物になるよう，設計してみましょう。

例えばこんな工夫

① メンテナンスしやすいようにする
② 経年変化を楽しめる工夫をする
③ 材料の性質を活かして設計する
④ 多様な使い方ができるようにする
⑤ 建具や部材の再活用ができるよう配慮する
※ それぞれの解説は次ページ参照

1 メンテナンスしやすいようにする

ここが京町家！

◇工夫しながら大切に使う

伝統的な京町家は，腐食した部材は取り替え，緩んだ接合部は締め直し，屋根は葺き替え，壁は塗り替える等，容易に修繕することができるよう様々な工夫がなされています。

ポイント・アドバイス

◇維持管理に配慮する

設備機器，配線等の点検，補修が容易な構造とし，メンテナンススペースを確保しましょう。

定期的に更新が必要になるようなものについては，取り替えが容易にできるようにしましょう。

日々のお手入れ，掃除がしやすいような工夫を考えてみましょう（天窓や吹き抜け部分の照明設備等，手の届きにくいような部分は特　に工夫をすると良いでしょう。）

2 経年変化を楽しめる工夫をする

ここが京町家！

◇自然素材の味わい

京町家は木や土，石など自然素材で作られていますが，自然素材は使い続けるほど味わいが出てきます。

ポイント・アドバイス

◇経年変化を楽しむ

仕上げ材には傷や経年変化も味になるような素材を使ってみましょう。

3 材料の性質を活かして設計する

ここが京町家！

◇木材の特性を活かす

木材には様々な樹種がありますが，土台には栗・ヒバ・桧など，柱には桧・杉・松など，梁には松など，といったように，京町家では材料の特性を活かして使用箇所毎に木材を使い分けています。

木材は自然素材なので，同じ樹種でも１本１本それぞれ異なります。昔は大工さんが，木材を１本１本吟味し，個性を活かして使用していました。また手刻み加工により，複雑な継ぎ手・仕口にも対応でき，品質の高い建物にできました。

ポイント・アドバイス

◇材料の特徴を踏まえて工夫する

材料の特性を理解して，その能力を最大限発揮できるよう使い分けることで，合理的で長持ちする建物にできます。

4 多様な使い方ができるようにする

ここが京町家！

◇多様な空間利用

京町家は，ふすまや障子といった簡単に取り外せる建具や，つい立てや屏風といった「しつらい」の道具類等により，必要に応じて多様にその空間を使えるようになっています。家族の年齢や世帯構成の変化に応じて使い方を変えられるほか，様々な用途で使うことも可能であり，現在でもすまい以外に，店舗やシェアオフィスなど様々な活用方法で使い続けられています。

ポイント・アドバイス

◇間仕切りを使い多目的に利用

将来的な家族構成やライフスタイル等の様々な変化に合わせて柔軟に対応できるように，工夫してみましょう。

例えば
＊間仕切りを自由に変えられるようにしたり，ひとつの空間を多用途に使えるようにする。可動する棚や壁を設けるとレイアウトの自由度が高まります。
＊将来を見越してバリアフリーやユニバーサルデザインにしておく。
＊多様に利用できることで，長く使うことができて経済的です。

5 建具や部材の再活用ができるよう配慮する

ここが京町家！

◇京町家のモジュール

京町家では寸法（モデュール※）が統一されており，畳や建具などの再利用や入替えが簡単にできるようになっています。

※京町家は，畳の寸法（6.3 尺× 3.15 尺）を基準として，部屋の大きさ，柱の位置を決める内法制の寸法ルールで建てられています。

ポイント・アドバイス

◇古材を活用する

古建具や古材を活用してみる。

職人さんが手作りで造った古い建具や手すきガラスなど，良質で貴重なものを再活用することで，環境面にやさしいだけでなく，愛着を持って大切に使ってもらえることが期待できます。

使い捨てではなく再活用できるよう，良質な素材を使ったり，寸法に配慮してみよう。

指針4　場所になじむ

地域特性や歴史を踏まえて設計する

ねらい・背景

京町家は一敷地の中に建つ単独の建物でありながら，まちや景観をつくりだす要素となっています。

まちなかでは，家が軒を連ねて，連担して町をつくっていますし，郊外部においては，ゆとりを持って家々が建ち並ぶことで，各地域ごとのまち並み景観を形成しています。

建物の外観は，一軒一軒，細かな違いがありますが，地域のルールを育て，守ることにより，全体の調和を乱すようなデザインを避けて，洗練された統一感のあるデザインが継承されてきました。

「京都らしい」魅力的な町並みを作り出し，継承していくには，そこに住まう人々の町に対する愛着や誇り，建物やくらしについての共通のルールが大切です。

新しく建てる建物も，京都の町並みを形作る大切な一要素になります。場所になじむ建物となるよう，地域の建築様式，伝統的なお祭り，これまでの歴史など，その地域の特徴，特質をよく理解し，尊重して設計しましょう。

例えばこんな工夫

① 地域特性を踏まえたデザインとする
② 昔ながらの地割りに配慮する
③ 建物本体だけでなく設備機器の見え方にも配慮する
※ 解説は次ページ参照

1 地域特性を踏まえたデザインとする

ここが京町家！

◇まちになじむデザイン

多彩な様式や突飛な意匠を抑制しつつ，棟の高さや格子の意匠など細かな違いにより変化を生み出し，洗練された魅力的な町並みを形作っています。

【通り庇】

・通りに向かって間口いっぱいに設けられた庇。軒下は通りと一体的な利用がなされ，通りの公的な空間と内側の私的な空間をつなぐ半公共的な空間として多様に使われています。また，隣と連なることで，統一感のある町並みを生み出しています。

【格子】

・光や風を通しながらも，道ゆく人からは内側が見えにくいが，家人からは外の様子が良く見えるようにできており，柔らかい防犯装置としての機能を持っています。

ポイント・アドバイス

◇地域の特性や歴史を把握する

歴史的に京町家が立地していた地域では，既存京町家となじむよう，平入りや通り庇といった要素を取入れ，連担させるなど，同じ京都市内でも，地域によって，共通する建築要素が微妙に異なるので，その地域の伝統的な住宅の建て方や，共通のルール，どのような特性のある地域なのか，といったことをよく調査しましょう。

その地域の伝統的な意匠をそのまま再現するのも一つですし，伝統的意匠や地域特性を踏まえつつ，新たな解釈をして，現代的デザインでもうまくなじむように創意工夫するのも一つです。意匠設計の腕の見せ所です。

【地域の特性，歴史，文化の調べ方】

「地域景観づくり協議会」など，まちづくり活動が活発な地域では，その地域の特徴や何を大切にしているかが，計画等としてまとめられていることがあります。

その地域では何を大切にしているのかを知るためにも，特に規模の大きい建物を建てる場合は，計画確定前から地元と対話することが大切です。

歴史等は，その地域に昔から住んでいる方にお話しを伺ってみることや，以下のような文献も参考になります。

〈参考文献の例〉

・京都市明細図
・日本歴史地名大系第 27 巻　京都市の地名
（株式会社平凡社）
・史料　京都の歴史（株式会社平凡社）

2 昔ながらの地割りに配慮する

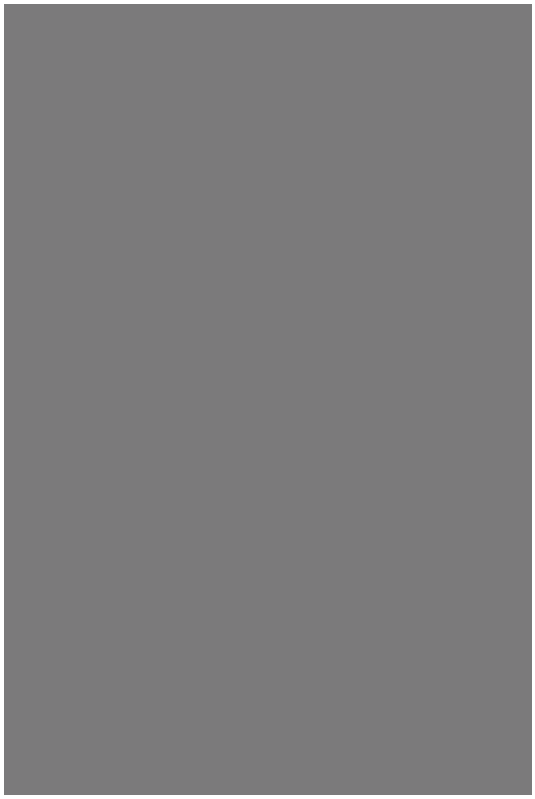
京町家が存する敷地の地割形状は，京都のまちの歴史的な形成過程を物語るものであり，その短冊形状の地割が，通りに面した「表」と，街区の居住環境の調整や延焼防止帯としての役割もある奥庭や土蔵などの「裏」という空間構造を生み出しました。

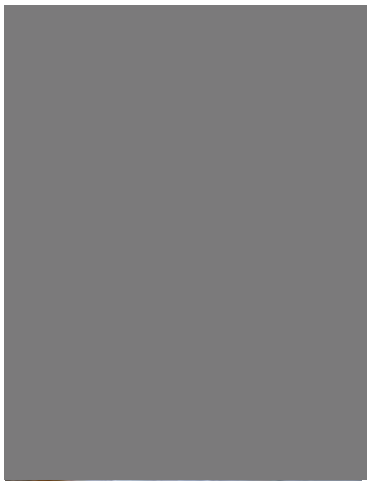
3 建物本体だけでなく設備機器の見え方にも配慮する

ポイント・アドバイス

まち並みに馴染むよう，建物本体だけでなく，設備機器にも配慮しましょう。

（注意）室外機を犬矢来や格子で囲うと，機器の効率が低下してしまいます。ファサード側に室外機をもってこないなど，配置場所で工夫しましょう。





指針5　技を感じる

伝統技術・技能を活かす

ねらい・背景

京町家は，木はもちろん，土や紙などの自然素材を用い，「伝統構法」と呼ばれる日本伝統の工法と，職人たちが長年にわたって受け継いできた様々な伝統技術によって作られており，地球環境や健康への関心の高まりとともに，再び注目されています。

瓦や土壁は，緩やかに統一された京都の美しい景観を作り出している大きな要素の一つであり，耐久性や耐火性にも優れています。

木組み，柱，梁の現しの造形は美しく，また，格子や木割り等の繊細な意匠は，日本人の美意識を育んできました。

また，木，畳，土壁や和紙を用いた障子といった自然素材を室内に用いることにより，温かみのある空間を作り出すとともに，快適な湿度の確保など，室内環境を向上させます。近年，日本人の生活様式の変化や建築技術の近代化の中で，伝統的な技術を使用する業務は減少し，さらに，技術者の高齢化などにより，職人の減少が顕著となっています。

「（仮）新築等京町家」では，伝統技術・技能を活かした建築や空間を推奨するだけでなく，伝統ある技術を現代に継承することも重要な役割の一つと考えています。

例えばこんな工夫

① 畳スペースを設ける
② 木組み，左官等の伝統技術・技能を生かすことも考える
③ 古建具や古材の活用も考える

※ それぞれの解説は次ページ参照

1 畳スペースを設ける

ここが京町家！

◇畳の効果

畳は表面に弾力性があり，足腰への負担が少なく，直接座ったり寝転がったりすることもできます。

い草は自然素材であり，また転んでも衝撃を吸収してくれるので，小さな子供がいても安心して遊ばせることができます。

ポイント・アドバイス

◇畳を楽しむ

フローリングと比べ，畳には断熱効果，調湿効果などもあります。また防音効果もあるので，階下への騒音が気になる共同住宅にもオススメです。

伝統的な座敷（真(しん)･行(ぎょう)･草(そう)）から，リビングの畳コーナーまで，
様々な取り入れ方があります。使い方や生活スタイルに合わせて設計してみましょう。

2 木組み，左官等の伝統技術・技能を生かすことも考える

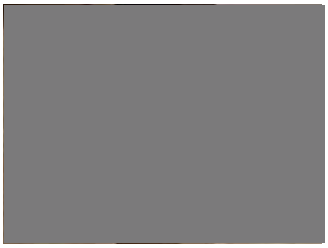
ここが京町家！

◇木と土壁の空間

木を室内に多く使うことで，温かみのある空間で過ごすことができます。

土壁には，空気をきれいに保つ効果や室内の調湿効果が，漆喰壁には，防水性や抗菌性があると言われており，快適な室内環境を生み出すことが可能です。

伝統構法には，美しい木組みの魅力があります。また，地震に対して変形はするが，容易に倒壊せずに持ちこたえる粘り強い性質を持っています。



ポイント・アドバイス

◇伝統技術・技能を活かす

現代の技術では，土壁にも断熱材を入れることが可能です。

現在の法律でも，限界耐力計算をすることで，伝統構法の新築が可能です。

3 古建具や古材の活用も考える

ここが京町家！

◇古いものを大切に使う

職人さんが手作りで造った昔の建具や手すきガラスなど，古建具には高品質な素材や高い技術力が詰まっており，和の繊細な意匠を楽しむことができます。

既存の建具等を再利用することで，新しく建具をつくるよりも，安くできることもあります。

コラムタイトル

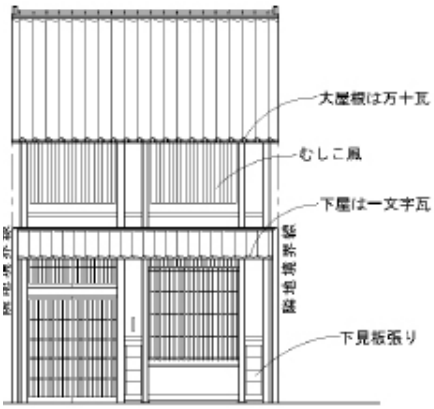
コラムの文章が入ります。

３.新築京町家設計事例

設計事例紹介

設計事例紹介

設計事例１（伝統的な意匠とするケース）



外観：通り庇や格子，和瓦など，伝統的な京町家の意匠

内部：和室や土間などの伝統的な空間を取り入れる

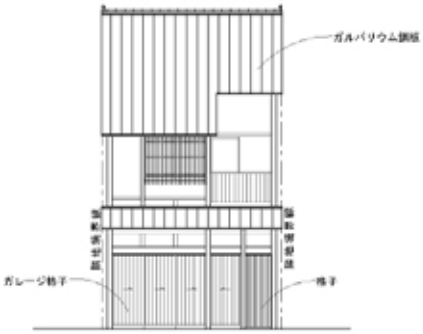
設計条件

・敷地条件：町家が比較的多く残る地域の短冊状敷地
　間口４．５５ｍ，敷地面積９０㎡

・世帯想定：年配夫婦の２人暮らし

・車無し

設計事例２（現代的な意匠とするケース）



外観：鋼板屋根を用いるなど，現代的な意匠

内部：くつろげる畳スペースなど町家の知恵を手軽に取り入れる

設計条件

・敷地条件：町家が比較的多く残る地域の短冊状敷地
　間口４．５５ｍ，敷地面積９０㎡

・世帯想定：ファミリー

・駐車スペース有り

②’現代的な意匠とするケース（職住共存版）

職住共存（１階が店舗）の３階建てモデル

設計条件

・敷地条件：町家が比較的多く残る地域の短冊状敷地
間口４．５５ｍ，敷地面積９０㎡

・世帯想定：ファミリー

・車無し

設計事例３（敷地に余裕のあるケース（郊外等））

③　敷地に余裕のあるケース（郊外等）

余裕のある敷地規模を想定した住宅

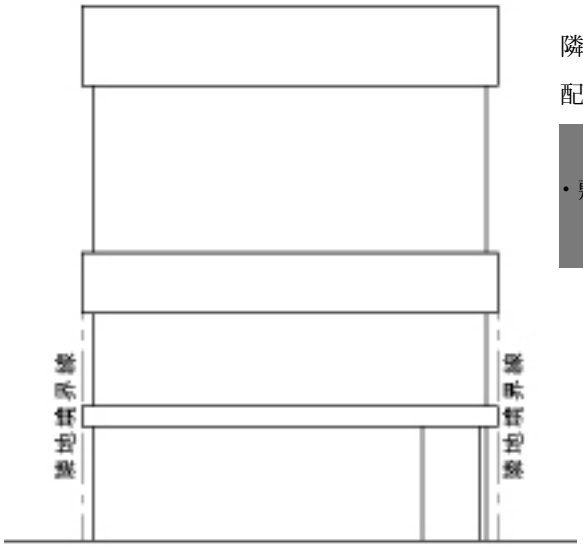
設計条件

・敷地条件：周辺に昔ながらの和風建物が比較的多く残る地域
間口８ｍ，敷地面積１２８㎡

・世帯想定：ファミリー

・駐車スペース有り

設計事例４（集合住宅に適用したケース）



隣地に既存京町家が立地する敷地での集合住宅の外観・配置計画

設計条件

・敷地条件：町家が比較的多く残る地域の短冊状敷地
　間口 11 ｍ，敷地面積３９６㎡

コンパクトな暮らしができる町家

伝統的町家の再構築

■伝統的京町家の意匠を現代の住まいに取り入れた住宅

京町家の伝統意匠を現代の住宅に取り入れつつ，住みやすさを実現するとともに，ご近所付き合いなどができる，交流の空間を共存させた「現代版京町家」

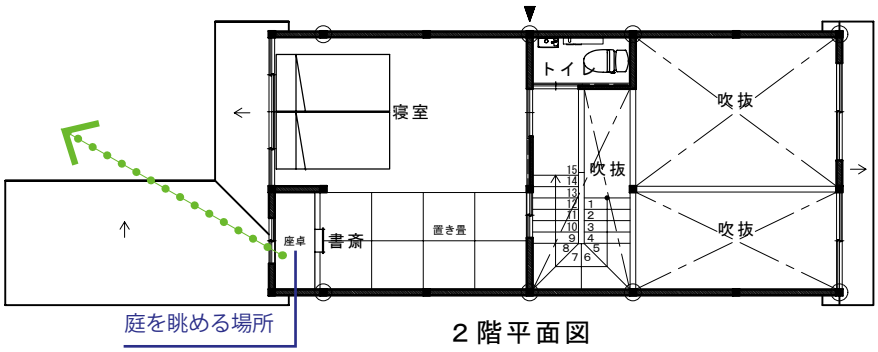
■コンパクトな暮らし方を実現する住まい

伝統的な町家の空間から，生活に必要な要素を抽出，再構成し，伝統を踏まえながらも，必要なものが近くにあるコンパクトな住み方が実現した居住空間を目指しました。

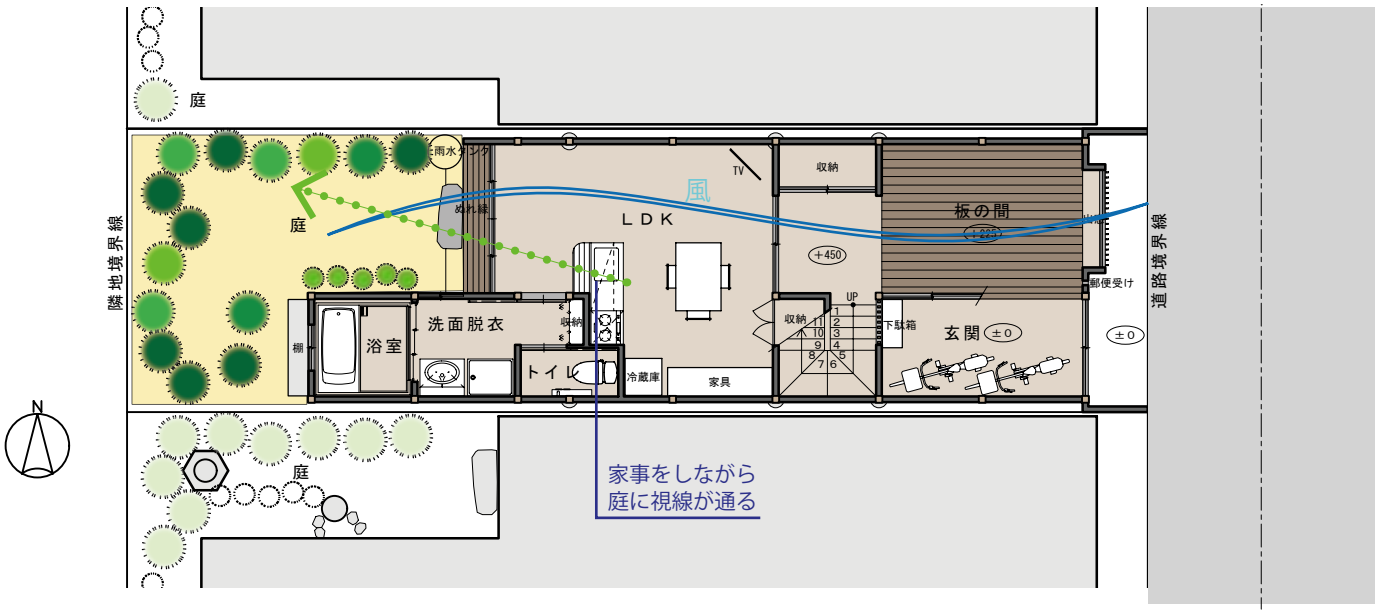
○住み手の設定

熟年夫婦の２人暮らしを想定しています。

ゆったりとした暮らしをしながら，ご近所づきあいを楽しみたい方にお勧めです。

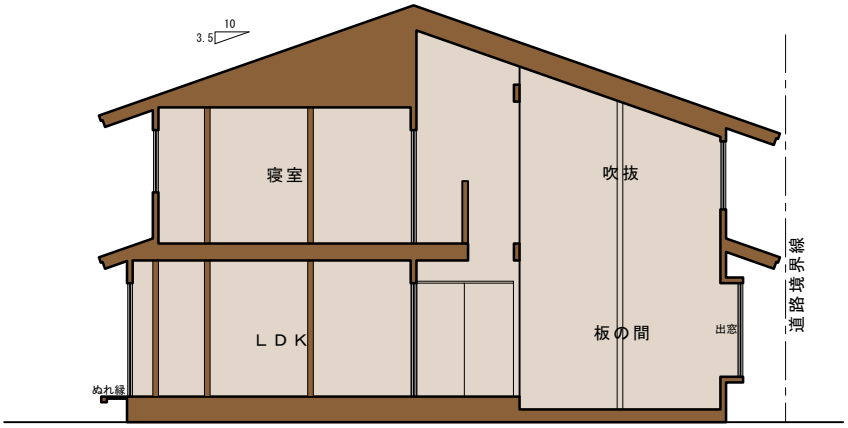


２階平面図



配置図・１階平面図

立面図



断面図

■プランデータ		
敷地面積		90.00㎡
建築面積		53.83㎡
延べ床面積	2階	25.67㎡
	1階	53.41㎡
		79.08㎡
参考家族構成		大人2人
設計要件	・想定敷地（上京区　周辺）	
	・用途地域（準工業地域）	
	・指定建ぺい率（60%）・指定容積率（200%）	
	・防火規制（準防火地域）	
	・景観規制（歴史遺産型美観地区）	

工夫したポイント

まちに暮らす

通りに面した部屋をご近所や仲間と歓談する空間を設け，外向きに開かれた空間とすることで，周辺との繋がりを意識しています。

四季や自然を楽しむ

居間から庭が近くに感じられる造りにして，部屋の中からでも自然を身近に感じさせる暮らしができます。

大切に使う

引戸を基本にした間仕切りとすることで，部屋と部屋のフレキシブルさを高め，多用途に使える空間をつくりだしています。

場所になじむ

隣接する町家の意匠に配慮して，通り庇や格子などの意匠を用いることで，隣との繋がりや，統一感のある町並みにすることを意識しています。

技を感じる

木材を室内に多く使うことや土壁等を使うことで，調湿効果や抗菌効果を高めた室内環境にしています。

設計条件・設計意図の解説

計画平面図

立面図・詳細図等

設計内容の説明

設計者の紹介

設計条件・設計意図の解説

計画平面図

立面図・詳細図等

設計内容の説明

設計者の紹介

設計条件・設計意図の解説

計画平面図

立面図・詳細図等

設計内容の説明

設計者の紹介

事例紹介に係わる事例紹介事例紹介

計画平面図・写真等

設計内容の説明

事例紹介に係わる事例紹介

計画平面図・写真等

設計内容の説明

参考資料

認証シート

認証制度　提出シート　１／２

■　敷地・地域の特徴（非公開）

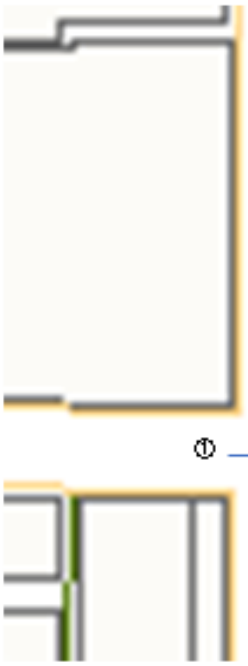
住所	区　　町　　（　　学区）
都市計画制限	用途地域 容積／建ぺい 防火／高度 景観地区
地域のまちづくりの方針等	地域のまちづくりの方針や，地区計画・建築協定・町式目など地域の 載

隣接地の状況（配慮すべき事項）

北側
南側

写真①

写真②



Ａ３サイズ１枚程度

	町並みの特徴
のルールを記	歴史・文化

	東側
	西側

写真③

写真④

認証制度　提出シート　２／２

■　設計シート（公開用）

プロジェクト名：●●の家

設計コンセプト	計画概要 区　町（　学区） 敷地面積： 建築面積： 延べ面積： 木造２階建て，専用住宅

配慮・工夫した点

指針１　～まちに暮らす～　隣地の状況，町並みを踏まえて，建物配置やプロポーションを計画する

指針２　～四季や自然を楽しむ～　四季や自然が楽しめるよう工夫する

指針３　～大切に使う～　大切に長く使い続けられるよう工夫する

指針４　～京都になじむ～　地域特性や歴史を踏まえて設計する

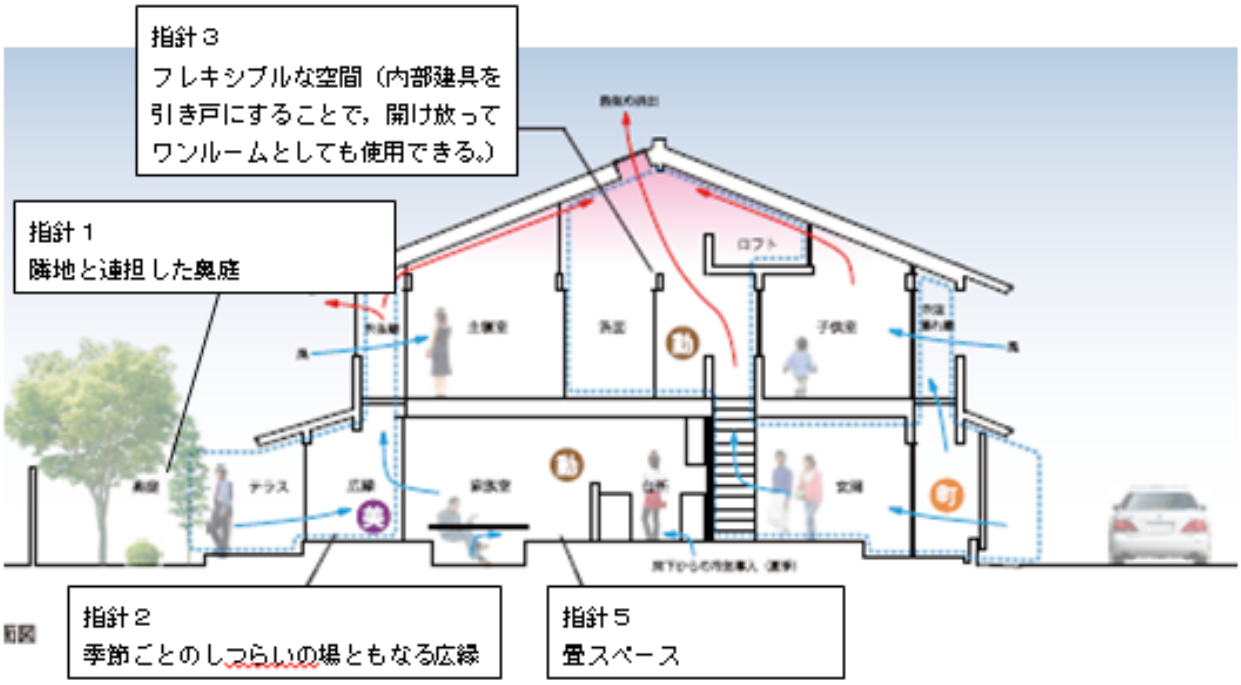
指針５　～技を感じる～　伝統技術・技能を活かしてみよう

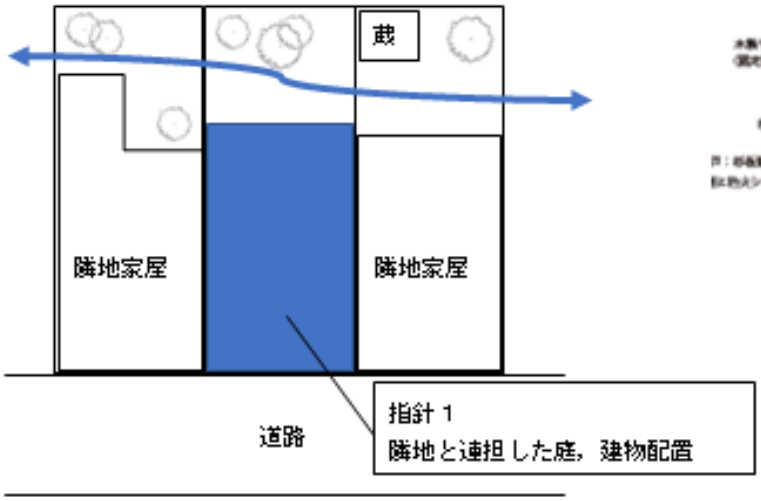
コメント（任意）
（例：京町家に対する考え方など）

Ａ３サイズ１枚程度

各配慮・工夫した点についての説明図

注）このシートは公開されます。





２／２

検討部会について

奥付